

漢方通信

発行人：医学博士・漢方医 山口 巖
山口診療所／東京都品川区西五反田2-29-11
Tel & Fax.03 (3490) 5495



のバランスで健康づくり

「不妊症」は、漢方で原因を見極めて治す！

現代医学は“部分”を、
漢方は“全身”を、
治療の対象にします

不妊症は、現代医学では婦人科が取扱う領域で、主に下腹部（子宮、卵管、卵巣）に限定したパートを対象にしています。

一方、漢方医学では、不妊症はなかなか妊娠できない、妊娠しても出産まで至らないなどの状態へ女性の身体全体へが治療の対象となります。

それは、漢方からみると一人ひとり赤ちゃんができていく原因や理由が違うはずだからです。身体全体をみて一人ひとりの体調の不具合やアンバランスな状態を分析し、体調を調整し、へ赤ちゃんがしやすい身体作りを目標に漢方治療を行っていくのが、不妊症に対する漢方医学の基本的立場です。

ここで、現代医学と漢方医学のアプローチの違いをみてみましょう。

現代医学で治療の対象外となる症状を見極め、治療するのが漢方

例えば、生理不順による月経前症候群、冷え症、胃腸がふだんから弱くてしよつちゅうお腹をこわす胃腸虚弱症、という不妊症の女性がいます。

現代医学では、不妊症の検査を一通り行って、検査に異常があればその治療を行い、併せて生理不順や月経前症候群の治療も、となります。しかし、冷え症や胃腸虚弱の方はそのままにされ、現代医学の婦人科の専門外となってしまう。

一方、漢方ではまず胃腸虚弱や冷え症の治療を先行して、丈夫で健康な身体作りを行います。次の段階で生理不順や月経前症候群の治療をして、妊娠しやすい身体作りを目指し、結果的に目標である不妊症を解消しようという二段階作戦をとる訳です。

つまり、漢方では、現代医学が

治療の対象外とした問題の解決を先行して、まずもって健康な身体作りを専念します。そうして身体の不調を改善した上で、現代医学と同じように生理不順や月経前症候群の漢方治療に取りかかるとは、

ケースによっては、冷え症やお腹をこわしやすい胃腸虚弱に対する漢方治療だけで、生理不順と一緒に改善されることもあり、時にはそのまま妊娠できたラッキーなケースもありました。

このように漢方では、不妊症なら不妊症だけの治療をするのではなく、一人ひとりの身体全体の不調や不具合までもみすえて治療をしていくのが特徴です。

婦人科で不妊症の検査をいろいろ受けたが（検査上では）異常なし、薬もなしといわれて困っている女性はたくさんおられます。

それは、漢方医学からみると、婦人科の検査では異常ないが、他に問題があるからです。

例えば、冷え症があるとか、疲れやすいとか、胃腸が弱いとかなどの問題があっても、それが婦人科の専門外であったり、現代医学の様々な検査でチェックされないからです。

女性の身体は、男性と異なる身体的、かつ年令的特徴があり、女性の健康管理や病気の治療に際しては、それなりの配慮が必要になってくるのはいうまでもありません。

不妊症の漢方治療によく用いられる薬は、

当归芍薬散（とうきしやくやくさん）、桂枝茯苓丸（けいしじぶくりょうがん）、加味逍遙散（かみしょうようさん）などいろいろあります。お困りの方は、ご相談ください。

